

# 「愛知県図書館の基本的な運営方針～すべての県民に役立つ拠点図書館をめざして～」の概要

## I 基本的な考え方

- 少子高齢化の進行
- 情報のデジタル化の進展及びインターネットの普及
- 県内市町村の図書館整備の進捗（H4年 74館 ⇒ H25年 95館）

○県内の拠点図書館として、新しい情報技術の活用や市町村図書館との協力によって、県民の誰もが質の高い図書館サービスを楽しむことができるよう取り組んでいくことが求められている。

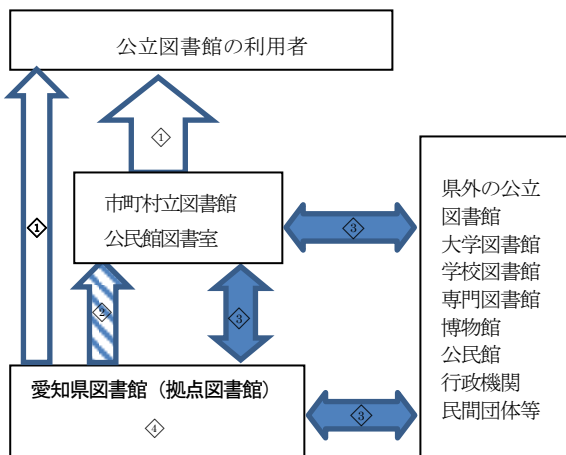
愛知県図書館の基本的な運営方針  
～すべての県民に役立つ拠点図書館をめざして～  
期間：平成26年度から35年度までの10年間

## II 愛知県図書館の役割

### 四つの役割

- ① 愛知県のすみずみまで図書館サービスを届けます
- ② 市町村立図書館や公民館図書室の運営を支援します
- ③ 図書館や関係機関のネットワークをつくります
- ④ 図書館活動を支える県図書館の体制を整えます

### 関連図



## III これからの10年においてめざすもの

- 1 すべての県民への図書館サービスの提供 → <取り組む行動の例>
  - どこでも、いつでも、誰でも使える図書館
  - 地域の文化・産業を支える図書館
  - 仕事や生活に役立つ図書館
  - 若い人に読書の楽しさを伝え知の力を育てる図書館
  - 生涯学習を支える図書館
  - ・市町村立図書館等に県図書館の資料を貸し出す協力貸出の対象資料の拡大と搬送期間の短縮
  - ・「貴重和本」など地域資料のデジタル化推進
  - ・産業分野に関連する資料の重点的収集
  - ・「愛知県子ども読書活動推進計画」に基づく取組の推進
- 2 市町村立図書館等への支援 → <取り組む行動の例>
  - 資料の提供
  - 除籍される資料の保存とあいちラストワン・プロジェクトの推進
  - 運営の助言
  - 人材の育成
  - ・県内図書館の所蔵情報の横断検索システム「愛蔵くん」や新聞・雑誌総合目録の充実
  - ・県内の公立図書館において「最後の一冊」となった資料を県図書館において保存する「あいちラストワン・プロジェクト」の拡充
  - ・市町村立図書館職員の実験に応じたスキルアップにつながる研修の充実
- 3 サービスを広げる図書館ネットワークの形成 → <取り組む行動の例>
  - 「資料搬送・情報」のネットワーク
  - 「にぎわい」のネットワーク
  - 「人」のネットワーク
  - 「危機対応」のネットワーク
  - ・県境を越えた東海・北陸地区の資料搬送ネットワークの維持、発展
  - ・他機関との連携イベントの実施
  - ・図書館関係者等の交流の促進
- 4 図書館活動を支える県図書館の体制の整備 → <取り組む行動の例>
  - 拠点図書館としての資料の収集と保存
  - 職員の育成と効率的な組織づくり
  - 新たな図書館サービスの調査研究・開発
  - 利便性の高い施設づくり
  - 効果的な広報活動
  - ・資料収集計画を策定し、市町村図書館では購入しにくい資料などを計画的に収集
  - ・先進的なサービスに結びつく調査研究
  - ・利用者の読書活動の支援につながる形でのホームページの充実

## IV これからの5年の行動計画

- ・前半5年間（平成26～30年度）における具体的な行動を年度別に明示
- ・後半5年間の行動計画は、事業の進捗状況を踏まえて検討

## V 事業計画の策定と点検・評価

- ・県図書館の運営に関する指標を選定し、それぞれの目標を設定するとともに、年度ごとの事業計画を策定・公表
- ・目標及び事業計画の達成状況について点検・評価し、その結果を図書館サービスの改善に活用